

1. 研究例会など

第57回 『学生の心のケアについて』

ピーター・バーニック氏

2009 年 9 月

第58回 『パラグアイの日本語教育』

常次亨介氏

2010 年 1 月

第59回 『ミドルベリー大学日本語学校の活動報告』

畑佐一味氏

2010 年 1 月

1 日講座 マンガ、アニメを利用した日本語教育

—21 世紀の学習者のための 21 世紀の日本語教育—

(小学館との共催)

2010 年 2 月

2. 教員研究活動報告 (2009 年 4 月～2010 年 3 月)

日比谷 潤子

論文

1. 「言語変異・言語変化のためのデータ —社会言語学におけるコーパスの活用」『月刊言語』
Vol. 38, No. 12、50-55 頁.

著書

1. 「言語の変異」池内正幸 (編)『言語と進化・変化』朝倉書店 158 - 176 頁 (2009 年 10 月)

講演

1. 大学評価フォーラム「内部質保証システムの充実をめざしたアカデミック・リソースの活用
—個性ある大学づくりのために—」 パネルディスカッション「アカデミック・リソースの把握・
分析と内部質保証システムの充実」パネリスト (2009 年 8 月 3 日)

2. 戦略的大学経営研究所 第 2 期「大学トップマネジメント・リーダーシップ・プログラム
(TMLP)」 講演「どのように学士課程教育を進めるのか？」講演 (2009 年 8 月 7 日)

3. 第 41 回 I D E 大学セミナー 中国・四国支部シンポジウム 教育の質保証「国際基督教大
学の取組」講演、パネルディスカッション「内部質保証システムの構築」パネリスト (2009 年 8
月 25 日)

4. 立命館大学 大学行政研究・研修センター 大学アドミニストレーター養成プログラム 大学行政論Ⅱ 「I C Uがめざす 21 世紀のリベラルアーツ教育」講演（2009 年 12 月 11 日）

研究助成金

1. 科学研究費補助金基盤研究（A）移民コミュニティの言語に関する総合的研究：言語接触の実態と言語政策の影響 研究分担者

根津 真知子

特別研究期間中

佐藤 豊

研究論文

1. 「国際的なサービスマニッシュ」桜井政成・津止正敏編『ボランティア教育の新地平線—サービスマニッシュの原理と実践—』pp. 227-235、ミネルヴァ書房

2. The Impact of Service-Learning: Reflections from Service-Learning Alumni. *Lessons from Service-Learning in Asia: Results from Collaborative Research in Higher Education, Service-Learning Series No. 4*, pp. 137-151. Co-authored with F. E. McCarthy, M. Mutsuko, and K. Yamamoto. 2009. International Christian University Service Learning Center.

研究発表

1. “The Impact of Service-Learning: Reflections from Service-Learning Alumni” at the 6th Pan-Asian Initiative on Service-Learning, 2nd Asia-Pacific Regional Conference on Service-Learning, Crossing Borders, Making Connections: Service-Learning in Diverse Communities. Organized by Lingnan University, Office of Service-Learning, and the UBCHEA (United Board for Christian Higher Education in Asia). June 3, 2009, Hong Kong.

講演

1. 三鷹ネットワーク大学連続講義、「言語習得理論（日本語の名詞修飾について）」、2009 年 9 月 26 日

2. ESD 研究発表会「日本と南アフリカの小中学校連携を軸とする ESD モデルの構築実践の試み」平成 21 年度「国際協力イニシアティブ」教育協力拠点形成事業、文部科学省・国際基督教大学主催、パネル討論「ESD モジュールの国際共同開発の意義と課題」にパネラーとして参加。2009 年 12 月 12 日、大沢台小学校

中村 一郎

なし

半田 淳子

研究論文

1. 「『隴西の李徴』とは、いかなる人物か？—中島敦『山月記』を読み直す—」『月刊国語教育』2010年3月号、50-53頁

報告書

1. 「2009年度ICU夏期日本語教育総括」『ICU日本語教育研究』6号、2010年3月、89-90頁

その他の出版物

1. 「飯島奈美（2009）『シネマ食堂』朝日新聞出版」『月刊国語教育』2010年2月号、95頁
2. 「Critical Thinking と死生学」『月刊国語教育』2009年11月号、10頁

研究発表

1. 「国語科教育法の新たな展開」第32回ICU教育セミナー、国際基督教大学、2009年8月3日

講演

1. 「第二言語としての日本語—日本語支援が必要な子どもたちを知る—」三鷹市教育委員会・三鷹ネットワーク大学推進機構共同企画講座、みたか教師力練成講座スクールリーダーコース、三鷹ネットワーク大学、2009年7月30日

岸本 恵実

研究論文

1. “*Dictionarium Latino Lusitanicum, ac Iaponicum* (1595) as a Learners’ Dictionary.” *ASIALEX* 2009, The Asian Association for Lexicography, Bangkok, CD-ROM, 2009.

その他の出版物

1. (会員新刊紹介) 長崎純心大学長崎学研究所編『長崎純心大学博物館所蔵 キリシタン関係資料「切支丹来朝記」「明和六年勝山町元来宗旨改帳」他』、『キリスト教史学』第63集（2009年7月）218-219頁

研究発表

1. “*Dictionarium Latino Lusitanicum, ac Iaponicum* (1595) as a Learners’ Dictionary.” *ASIALEX* 2009,

The Imperial Queen's Park Hotel, Bangkok, 2009/8/20.

2. 『『羅葡日辞書』日本語訳のゆれ ―「南蛮」をめぐって―』キリシタン学研究会例会（2009 年 12 月 26 日於聖心女子大学）

3. 『『羅葡日辞書』『日葡辞書』を用いた語史研究の試み』キリシタン学研究会例会（2010 年 2 月 13 日於聖心女子大学）

4. “Comparison among dictionaries written by the Jesuits in Japan: *Dictionarium Latino Lusitanicum, ac Iaponicum* (1595) and *Vocabulario da lingoa de Iapam* (1603–1604).” 6th International Conference on Missionary Linguistics, Tokyo University of Foreign Studies, Tokyo, 2010/3/18.

研究助成金

1. 科学研究費補助金 2009–2011 年度若手研究（B）『『羅葡日辞書』を中心としたキリシタン辞書編纂の研究』研究代表者
2. 日本学術振興会 2009 年度国際学会等派遣事業（研究発表 1.に対して）

水田 洋子

研究発表

1. “A comparative analysis of verb meaning and usage in biological and general contexts: with a special reference to *translate* and *transform*”, Oral presentation at 11th International Pragmatics Conference, 12-17 July, 2009, Melbourne, Australia.

平田 泉

なし

尾崎 (渡辺) 久美子

その他の出版物

1. (書籍紹介)「ネイサン・ブラウン訳 覆刻『志無也久世無志與』別冊 川島第二郎著『ネイサン・ブラウンと「志無也久世無志與」』』『キリスト教史学』第 63 集、キリスト教史学会、2009 年

その他の活動

1. キリスト教史学会 運営委員（2009 年 11 月まで）、理事（2009 年 11 月より）
2. キリスト教史学会 学会誌編集委員
3. 朝日カルチャーセンター 日本語教師養成講座 講師

鈴木 庸子

報告書

1. 教務主任報告『ICU日本語教育研究 5』,2009 年 3 月 83-89 頁 (追加)
2. 所報「ICU リテラシー研究会」活動報告『ICU 教育研究 52』2010 年 3 月 (印刷中)

研究助成金

1. 平成 20 年度—22 年度 文部科学省研究費補助金基盤研究 C (一般)「ウィキブックによる多国間参加型日本語作文授業のデザイン」(研究代表者鈴木庸子、鄭仁星と共同研究)
2. 平成 21 年度 ICU 研究助成基金「中級日本語教育のための映像教材の開発研究」

その他の活動

1. 平成 21 年度「生活者としての外国人」のための日本語教育事業(文化庁)による「2009 年秋 ICU 公開講座『外国人児童生徒の日本語力・母語力の育成:基礎講座と OBC 実践ワークショップ』」運営委員代表
2. MISHOP (Mitaka International Society for Hospitality) 20 周年プロジェクト委員 (2008 年 6 月—2009 年 11 月)

小澤 伊久美

研究論文

1. 「教師のピリーフ研究における PAC 分析活用の可能性と留意点—HALBAU と SPSS による分析結果の相違についての考察から—」(坪根由香里・嶽肩志江との共同執筆)『言語文化と日本語教育』38、お茶の水女子大学日本言語文化学会、2009 年 12 月、30-38 頁.
2. 「日本語学習者と読解教材のインタラクションの解明に向けた縦断的調査—PAC 分析を研究手法として—」(丸山千歌との共同執筆)『横浜国立大学留学生センター教育研究論集』17、横浜国立大学留学生センター、2010 年 3 月 (印刷中) .
3. 「PAC 分析における好ましい統計処理とは—ソフトウェアによってデンドログラムが相違する問題への対処のために—」(丸山千歌との共同執筆)『ICU 日本語教育研究』6、ICU 日本語教育研究センター、2010 年 3 月、25-47 頁.

報告書

1. 教務主任報告『ICU 日本語教育研究』6、ICU 日本語教育研究センター、2010 年 3 月、91-97 頁.

研究発表

1. 「SPSS と HALBAU による PAC 分析インタビューの比較—デンドログラムの相違がインタビューに与える影響についての一考察—」(丸山千歌との共同発表) PAC 分析学会第 3 回研究大会、於明治学院大学、2009 年 12 月 19 日.

教科書

1. 『総合日語』第二冊 (改定版)、2010 年 2 月、北京大学出版

研究助成金

1. 2007.4～至現在 科学研究費助成金 (研究分担者)
平成 19-21 年度科学研究費補助金 (基盤研究(C)) 「PAC 分析法を活用した学習者が日本語教材から受ける影響と学習者要因の解明」 (研究代表者: 丸山千歌、課題番号: 19520449)
2. 2007.9～至現在 科学研究費助成金 (研究代表者)
平成 19-22 年度科学研究費補助金 (基盤研究(C)) 「オン・ゴーイング法と PAC 分析法の活用による日本語教師の実践的思考の解明」 (課題番号: 19529005)
3. 2009.4～至現在 科学研究費助成金 (研究分担者)
平成 21-24 年度 科学研究費助成金 (基盤研究(C)) 「量的・質的ビリーフ研究から海外ノンネイティブ日本語教師の研修に必要なものを探る」 (研究代表者: 坪根由香里、課題番号: 32689)
4. 2009 年度 国際基督教大学国際学術交流基金 (企画)
「大学における JSL プログラム評価: 実践と結果の利用」
5. 2009.4～至現在 (研究協力者)
平成 21-23 年度 科学研究費助成金 (基盤研究(B)) 「継承日本語教育に関する文献のデータベース化と専門家養成」 (研究代表者: 中島和子、課題番号: 21320096)

金山 泰子

研究論文

1. 二宮理佳・金山泰子 「『はい』『ええ』の使い分けに関する考察- テレビ映像を使用したインタビュー調査による- 」 『ICU 日本語教育研究』 6. ICU 日本語教育センター、2010 年 3 月

数野 恵理

なし

3. 教職員一覧

日本語教育研究センター教員（教養学部と兼担）

日比谷潤子 日本語教育研究センター長

根津真知子

佐藤 豊 日本語教育課程 主任

中村 一郎

半田 淳子 2009 年度夏期日本語教育ディレクター及び『ICU 日本語教育研究』編集委員長

岸本 恵実

水田 洋子

平田 泉

尾崎久美子 日本語教育課程 副主任

鈴木 庸子

小澤伊久美 2009 年度夏期日本語教育教務主任・『ICU 日本語教育研究』編集委員

金山 泰子

黒川美紀子（2009 年 8 月 31 日退任）

数野 恵理（2009 年 4 月 1 日着任）

日本語教育研究センター嘱託

朝倉 怜子 日本語教育研究センター事務